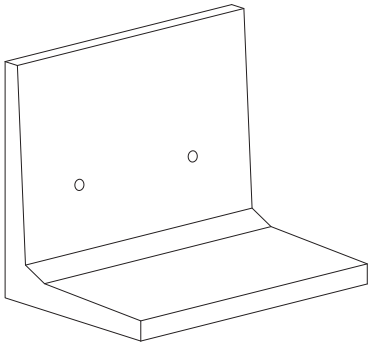
逆Lウォール

■特　長

・H750～H3000まで対応した逆Ｌ型擁壁です。
・主働土圧作用側の反対側に底版を設置するため、
　用地の制約を受ける場合等に有効です。
・天端斜切加工、短尺加工にも対応可能です。

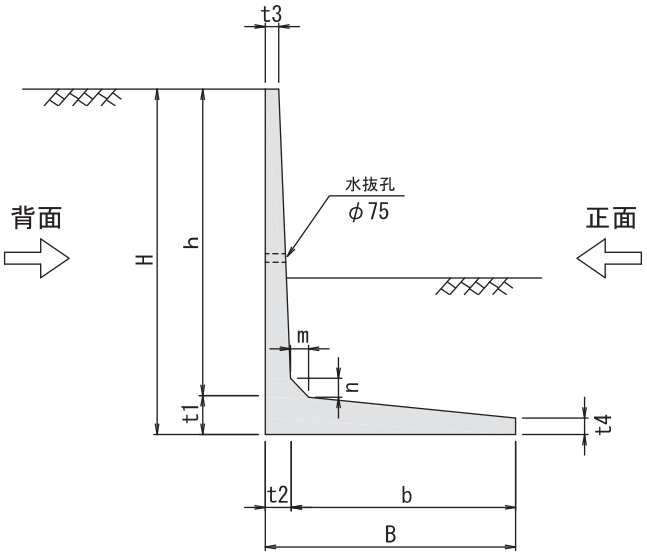


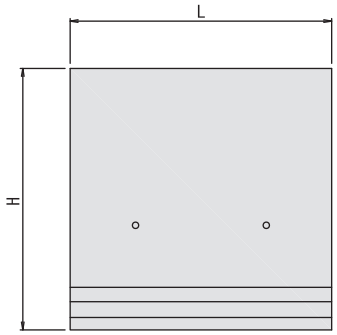
正　面　図

■用　途

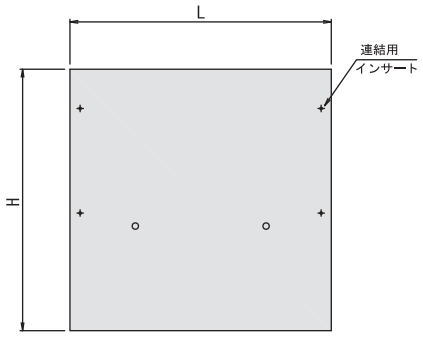
・道路拡幅及び宅地造成に伴う新設時の土留工

側　面　図





背　面　図



H (mm)	B (mm)	L (mm)	h (mm)	b (mm)	t1 (mm)	t2 (mm)	t3 (mm)	t4 (mm)	m (mm)	n (mm)	参考重量 (kg)
750	750	2,000	575	650	175	100	76	110	50	50	780
1,000	850	2,000	825	750	175	100	66	100	50	50	915
1,250	1,000	2,000	1,050	875	200	125	82	112	50	50	1,300
1,500	1,150	2,000	1,300	1,025	200	125	72	97	50	50	1,470
1,750	1,300	2,000	1,525	1,150	225	150	88	110	100	100	1,980
2,000	1,450	2,000	1,775	1,300	225	150	78	95	100	100	2,160
2,250	1,600	2,000	2,000	1,425	250	175	94	114	100	100	2,770
2,500	1,750	2,000	2,250	1,575	250	175	84	100	100	100	2,960
2,750	1,900	2,000	2,475	1,700	275	200	100	155	150	150	3,850
3,000	2,100	2,000	2,725	1,900	275	200	90	155	150	150	4,090

逆Lウォール

■設計条件

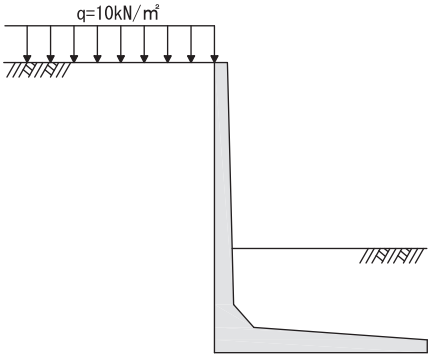
上載荷重	q=10kN/㎡
背面土の内部摩擦角	ϕ=30°
土の単位体積重量	γs=19kN/㎥
コンクリートの単位体積重量	γc=24.5kN/㎥
支持地盤の摩擦係数	μ=0.6
土圧計算式	試行くさび法

擁壁の通常の設計において、根入部の前面地盤による滑動抵抗力（受働土圧）は、洪水時や豪雨時の洗堀、人為的な掘り返し等により前面地盤が取り除かれるおそれや、地盤の凍結等により滑動抵抗力が十分に発揮されない場合もあることから考慮しないのが一般的です。

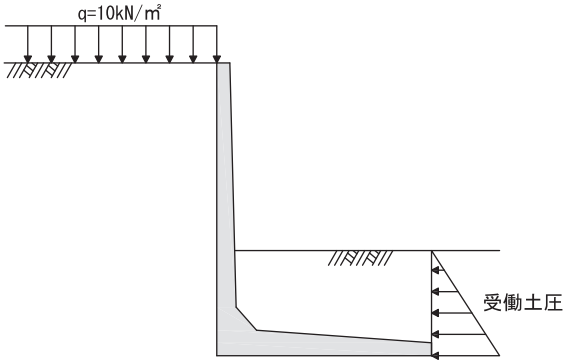
逆Ｌ型擁壁の設計においては、滑動抵抗力（受働土圧）を考慮した場合に比べ、考慮しない場合の方が安定に必要な根入深さや、擁壁の底版長が長くなる傾向にあります。

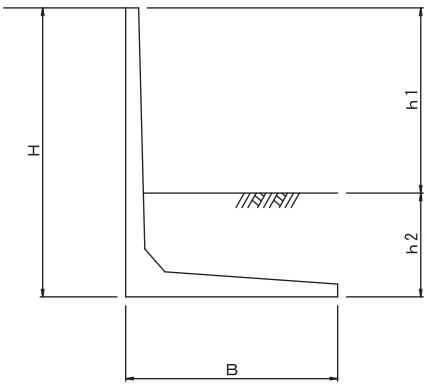
受働土圧を考慮する場合は、将来的に根入側の地盤の洗堀や人為的な掘り返しが行われないことをよくご協議の上でご採用下さい。
また、前面地盤の埋戻しに当たっては十分な締固めを行ってください。

【 受働土圧無し 】



【 受働土圧考慮 】





受働土圧無し

H	B	h1	h2
750	750	300	450
1,000	850	350	650
1,250	1,000	500	750
1,500	1,150	600	900
1,750	1,300	750	1,000
2,000	1,450	850	1,150
2,250	1,600	1,000	1,250
2,500	1,750	1,100	1,400
2,750	1,900	1,300	1,450
3,000	2,100	1,450	1,550

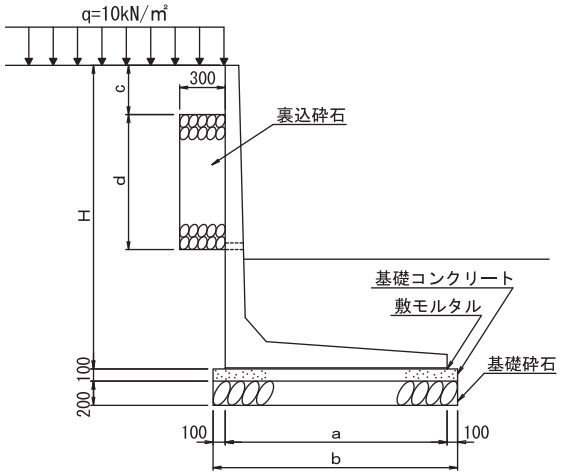
受働土圧考慮

H	B	h1	h2
750	750	450	300
1,000	850	600	400
1,250	1,000	750	500
1,500	1,150	950	550
1,750	1,300	1,150	600
2,000	1,450	1,300	700
2,250	1,600	1,450	800
2,500	1,750	1,650	850
2,750	1,900	1,850	900
3,000	2,100	2,000	1000

※上記以外の設計条件についても別途検討します。

逆Lウォール

■標準施工断面図



名　称	a	b	c	d
H-　750	750	950	300	—
H-　1,000	850	1,050	300	—
H-　1,250	1,000	1,200	300	88
H-　1,500	1,150	1,350	300	138
H-　1,750	1,300	1,500	300	288
H-　2,000	1,450	1,650	300	438
H-　2,250	1,600	1,800	300	588
H-　2,500	1,750	1,950	300	638
H-　2,750	1,900	2,100	300	888
H-　3,000	2,100	2,300	300	1,038

■施工歩掛り(10m当たり)

名　称	擁壁ブロック 個	基礎砕石 (t=200) ㎥	基礎型枠 ㎡	基礎コンクリート (t=100) ㎥	裏込砕石 ㎥	バックホウ (クレーン機能付) (2.9t吊り) 日	ラフテレーンクレーン (25t吊り) 日	世話役 人	ブロック工 人	普通作業員 人	諸雑費 %
H-　750	5.0	9.50	2.00	0.95	—	0.22		0.22	0.22	0.67	16
H-　1,000	5.0	10.50	2.00	1.05	—						
H-　1,250	5.0	12.00	2.00	1.20	0.26		0.26	0.26	0.26	0.79	18
H-　1,500	5.0	13.50	2.00	1.35	0.41						
H-　1,750	5.0	15.00	2.00	1.50	0.86						
H-　2,000	5.0	16.50	2.00	1.65	1.31						
H-　2,250	5.0	18.00	2.00	1.80	1.76		0.33	0.33	0.33	1.00	20
H-　2,500	5.0	19.50	2.00	1.95	1.91						
H-　2,750	5.0	21.00	2.00	2.10	2.66						
H-　3,000	5.0	23.00	2.00	2.30	3.11						

※本歩掛りは、平成24年度国土交通省土木積算基準を参考としています。
※現場内の小運搬(10m程度)を含み、敷きモルタル、排水材の設置までの作業で、床掘、埋戻し、基礎砕石の敷き均し、基礎コンクリートの打設は含まれておりません。
※諸雑費は、敷きモルタル、排水材の費用であり、労務費及び機械賃料の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上してください。
※現場条件等により上表により難い場合は、現場条件に適合した据付に使用する機械の機種・規格を計上してください。